

# 「令和7年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

【富里市立富里第一小学校】

令和7年4月に、小学校第6学年全児童、中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本校の結果についてお知らせします。

## 1 児童が受けた調査について

「国語」、「算数」、「理科」「児童に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

### 教科に関する調査

- (1) ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等  
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※出題範囲：原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

### 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

※調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/25chousa/25chousa.htm>

## 2 本校児童の調査結果

本校児童の調査結果及び分析は以下のとおりです。

(1) 教科の正答率について (※ 全国公立小学校の平均正答率（以下全国平均）との比較)

国 語	学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題	C
算 数	学習指導要領における、「数と計算」、「図形」、「測定」、「変化と関係」、「データの活用」の各領域に示された指導内容からバランスよく出題	C
理 科	学習指導要領の目標及び内容に基づき、「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」などの科学の基本的な概念等を柱とした内容をバランスよく出題	C

☆ 全国平均正答率との比較について

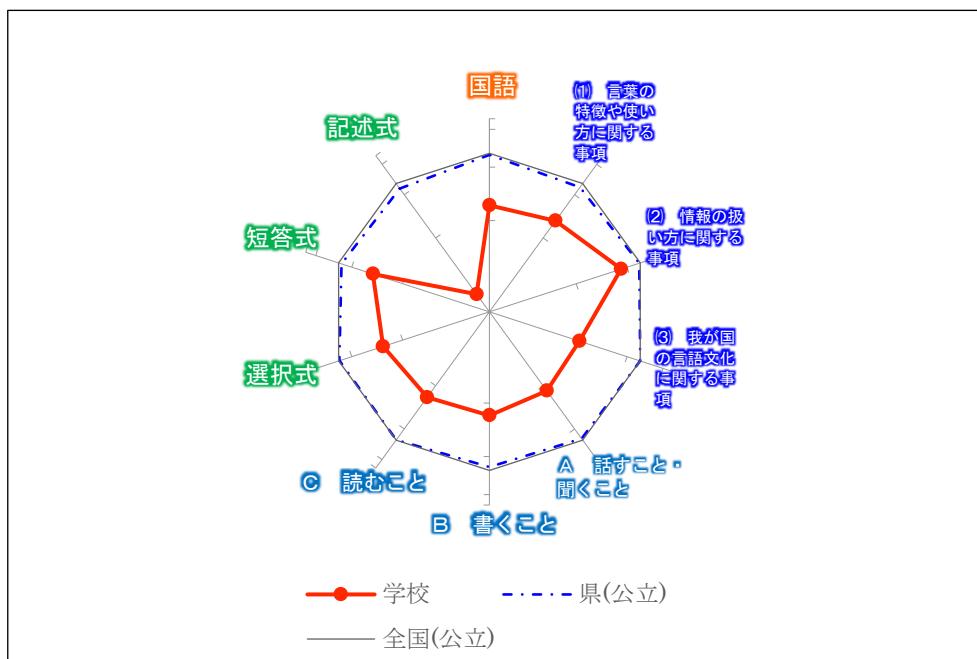
A : +5.0%より上回っている場合「良好」

B : +5.0%～-5.0%の場合「ほぼ同じ」

C : -5.0%より下回っている場合「要改善」

## (2) 教科ごとの分析

### 国語



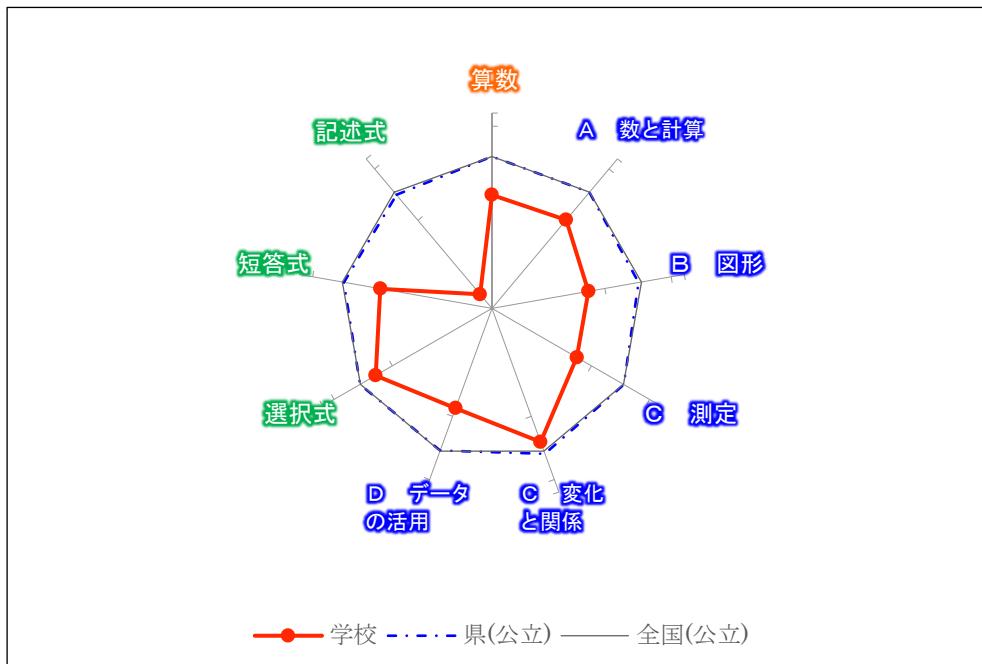
#### 【特徴と現状】

- ・全体の結果は、どの領域も全国平均および県平均を下回っています。
- ・特に記述式の問題は、著しく低いです。60字～100字程度書く記述式問題は無解答が3割、後半の記述式問題においては5割の児童が無解答でした。課題は、自分の考えを記述すること、最後まで解ききることです。
- ・「(1) 情報の取扱いに関する事項」は、比較的全国平均との点差が小さい領域でした。出題が図を読み取るような問題であったことから、図や表などから情報を読み取ることができていることがわかります。
- ・文章中の言葉を正しく理解できていない傾向があります。そのため、長文を読み切れることが困難で、解答時間を大きく割くだけでなく、間われていることが正確に見つけられていないようでした。

#### 【改善方策等】

- ・全体的な知識理解を高めるためにドリルタイムを計画的に実施し、基礎基本の確実な定着を図ります。
- ・授業で文章を読み取る際には、言葉の意味を含め丁寧に指導し、文の要旨を読み取る力の向上を目指します。
- ・文章を読み取る力を高めるために、学校全体で国語科を研究し、説明文を読み取る力の向上を目指します。キーワードとなる接続詞に注目させることや重要な部分がどこかを見つけさせるなど、説明文の構成を意識しながら、重要な部分を集中して読めるように取り組んでいきます。
- ・記述式の問題については、課題に対して筋道を立て論理的に考える活動、自分の考えを順序立てて文章構成する活動、そして、自分の考えを適切な言葉を使って表現する活動などを様々な教科、場面において積極的に取り入れることで、文章の記述力および表現力の向上を図っていきます。

## 算 数



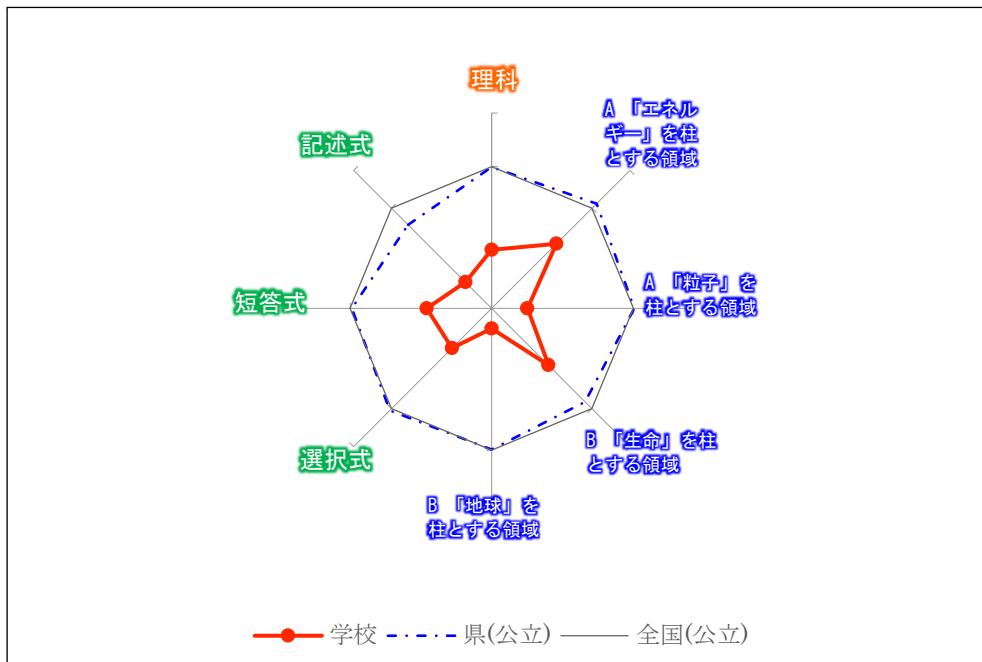
### 【特徴と現状】

- ・全体の結果は、どの領域も全国平均および県平均を下回っています。
- ・特に記述式の問題に課題がありました。
- ・「C 変化と関係」においては、比較的全国平均と点差の小さい領域でした。問題が日頃目にしているハンドソープを題材にした内容であり、イメージをもって答えを導くことができました。
- ・「A 数と計算」の知識・技能においては、正答率が高い問題がありました。朝・昼のドリルタイムで行っている計算練習の成果は出てきています。
- ・グラフを読み取ったり、図や絵から考えたりする文章問題では、比較的高い正答率でした。

### 【改善方策等】

- ・現在伸びている計算能力をさらに伸ばすために、ドリルタイムを計画的に実施し、基礎基本の確実な定着を図ります。
- ・問われていることが何かを適切に判断する力を向上させていくために、国語科の学習と併せて、文章を読んで要点を正しく読み取っていく活動に力を入れていきます。
- ・図形や数量を日常生活と関連づけて解釈するような活動を意図的に取り入れます。
- ・記述式の問題に取り組めるよう、日頃の授業において、どのような筋道で解いたのかを文章で表現したり、それらを互いに検討したりする活動を充実させていきます。
- ・文章を読み、図に表す力や図から立式する力を育てます。特に、図から立式することは比較的できているので、文章から図をイメージする力を高めていきます。グラフ等の資料の読み取りについては、社会科の学習と併せて読み取る力、活用する力の指導の充実を図っていきます。

## 理科



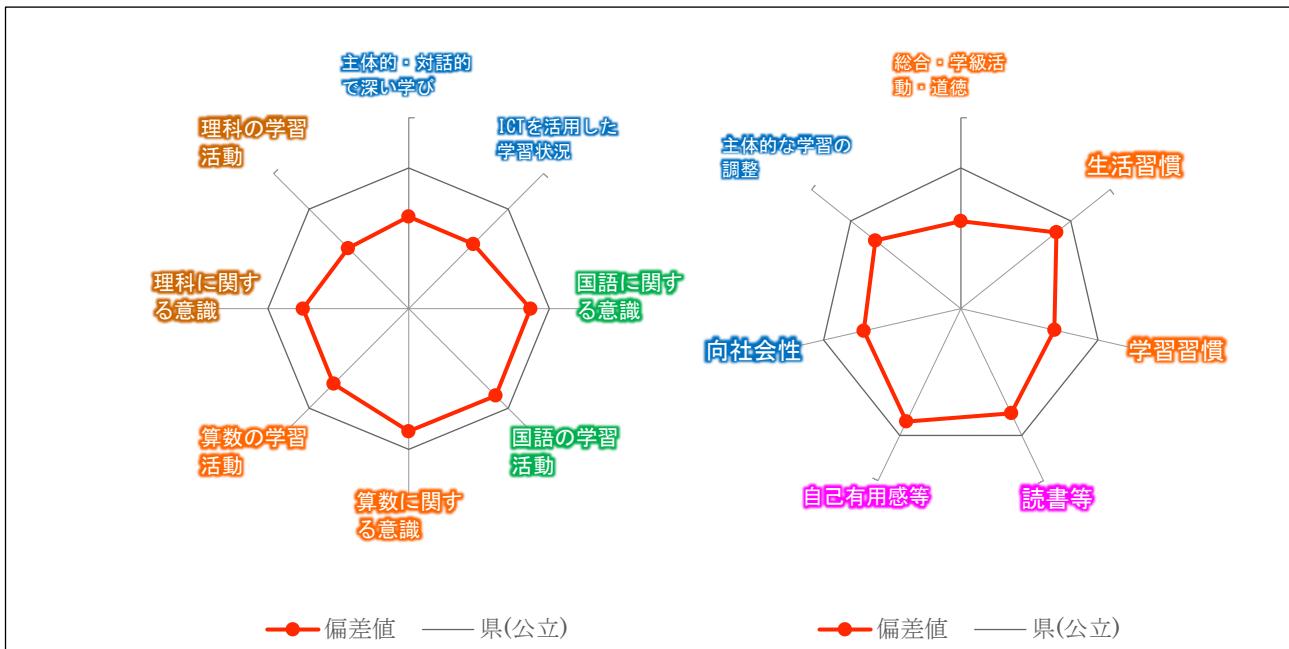
### 【特徴と現状】

- ・全体の結果は、どの領域も全国平均および県平均を下回っています。
- ・特に記述式の問題が低いです。国語科、算数科の問題に比べ無解答者が多く、後半の問題は選択式でしたが無解答が多くありました。
- ・「Aエネルギーを柱とする領域」および「B生命を柱とする領域」においては、他の領域に比べ正答率が高めでした。特に、花のつくりについての問題は比較的できていました。

### 【改善方策等】

- ・観察や実験を通して、実際に目で見る、匂いを嗅ぐ、触れる等、体験したことをノートに記録したり自分でまとめたりすることで定着を図っていきます。
- ・理科の授業にかかわらず、日常の事象の中で自然に関することなどの話をし、子どもたちの素直な疑問や発想を大切にした授業を展開することで理科に対する興味関心を高めるようにします。
- ・国語科で説明文を読み解く力を持つ研究を進めています。理科でも文章を正確に読み取り、問われていることに対して的確に答えることができるようになります。また、写真や図と合わせていくことで書いてあることをイメージできる様に練習していきます。

### (3) 児童に対する質問紙調査の結果及び分析



#### 【特徴と現状】

- ・学習習慣、特に家庭学習の習慣がついていないようです。家庭学習の時間が30分以下の児童が半数以上であり、先を見通をもち、自分で計画的に家庭学習ができるような課題を出すようにします。
- ・各教科において、自分の考えをまとめたり、発表したりすることが苦手と感じている児童が多いです。授業ではまとめを自分の言葉で書くことや、朝の会や帰りの会では1分間スピーチや今日の感想などを発表する機会を作り、人前で話すことに慣れるようにすることをさらに強化していく必要があります。

### 3まとめ

学校においては、基礎的・基本的な学習を引き続き充実させるとともに、「思考力・表現力」の向上に努めてまいります。さらに、目的に応じて話し合ったり、文章を書いたりする活動も充実できるよう、指導方法の工夫・改善に努めてまいります。そして、学習内容の定着を図るために、家庭学習の工夫・改善を図っていきます。本校では学力向上委員会を中心に、様々な取り組みを推進し、学力の向上を図っています。また、富一スタンダードを作成し、学習面、生活面ともに、学校全体で共通理解を図り、改善を重ねています。児童の成長は学校と家庭とが協力し合うことで達成できます。今後も保護者の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。